



学校だより

# みどりの

7月号

一人一人の笑顔輝くみどりっ子 ~私も大切 あなたも大切~

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和8年7月1日

## 充実した夏休みを過ごすために

校長 大塚 恭子

7月を迎え、1学期もいよいよ締めくくりの時期となりました。保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

7月17日に1学期の終業式を迎えると、いよいよ子どもたちが待ちに待った夏休みが始まります。昨年度の学校だより7月号では、江戸時代の儒学者である新井白石の「一粒の米」というエピソードを紹介しました。「最後までやり切った」という達成する喜びや体験を積み重ねることで、子どもたちは自分に自信をもち、それが新たな挑戦への意欲につながっていくことをお伝えしました。

子どもたちが自信を育み、新たな挑戦へと歩みを進めるためには、そのもととなる経験を積み重ねることが大切です。そして、その経験を生み出すのは、毎日誰にでも等しく与えられている時間です。イギリスの作家アーノルド・ベネットは、著書『自分の時間』の中で次のように述べています。

朝、目覚める。すると、不思議なことに、あなたの財布にはまさらな24時間がぎっしりと詰まっている。そして、それがすべてあなたのものなのだ。これこそ最も貴重な財産である。

時間は実に不思議な貴重品である。そして、それ自体の不思議さもさることながら、その与えられ方も実に不思議である。

考えてもごらん下さい!

誰もあなたから時間を取り上げることはできないし、盗むこともできない。そして、あなたより多く時間を与えられている者も、あるいは少なく与えられている者もないのだ。

(中略)

そのうえ、先の方まで引きだして前借りするなどということもできない。できるのは、過ぎ去っていく現在という時間を浪費することだけだ。(アーノルド・ベネット著 渡部昇一 訳・解説 『自分の時間』 三笠書房)

夏休みは普段より自由に使える時間が増えます。何となく過ごしているうちに、一日が終わってしまうこともあります。限りある時間を意識しながら過ごすことで、一日はより価値あるものとなります。

この夏休みには、ぜひ夢中になれることや興味・関心のあることを見つけ、とことん追究してほしいと思います。そのなかで得られる達成感や成功体験の一つ一つが、子どもたちの自信となり、次の挑戦へとつながっていくことを願っています。

